



高校生向け

年組

「なる可能性ある」半数

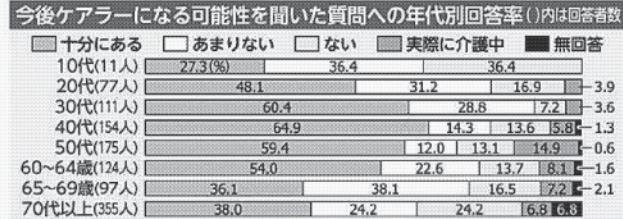
県政世論調査

県が実施した2023年度の県政世論調査で、家族の介護や世話を担う「ケアラー」になる可能性が「十分にある」と回答した県民の割合が49・4%と半数以上になったことが24日までに分かった。特に30～50代で多くの県民が介護を感じている現状が浮き彫りになった。

30～50代 意識高く

「なる可能性ある」半数
県政世論調査

ケアラーになる可能性がある。社会全体でケアラーを支える必要性を改めて痛感した」と話した。



(2023年9月25日付・下野新聞一面)

設問

【1】記事に照らして、「ケアラー」とはどのような人を言いますか。本文から抜き出して答えてください。

【2】記事に照らして、県政世論調査の結果について正しいものには○、そうでないものには×で答えてください

①調査は県内在住のすべての年齢の県民を対象にしている()

②今後「ケアラーになる可能性が十分にある」と回答した県民の割合は半数を超えていた()

③今後「ケアラーになる可能性が十分にある」と回答した県民の年代別は30代が最も多かった()

④「実際に介護中」と回答した県民の年代別は50代が最も多かった()

【3】記事に照らして、県政世論調査の結果について正しいものには○、そうでないものには×で答えてください

①ケアラーという言葉と意味に関する質問で「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合が最も高かった()

②ケアラーという言葉を「聞いたことはあるが、内

容は知らない」と回答した割合は30%を超える()

③ケアラーという言葉を「聞いたことはない」と回答した割合は4分の1以上だった()

④ケアラーという言葉の内容を知らない人は半数を超える()

【4】記事にある県政世論調査で、「ケアラーが社会から孤立することなく、安心して生活するために、今後、どのような支援策が必要だと考えますか」という質問に対して上位5項目は以下のようになります。②～⑤の中からあなたが考える具体的な支援策を100字程度で答えてください。

①ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実 64.8%

②福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備 50.3%

③ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実 48.5%

④地域や社会でケアラーを支える意識の醸成(広報や啓発活動等の実施) 40.6%

⑤介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成 38.1%

参考：2023県政世論調査速報